

第3学年*組 国語科学習指導案					
平成24年 *月 *日 (*) 第*校時 3年*組教室	指導者 湯浅 周美				
育成する国語の能力	古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。				
単元名	歌論を読む				
単元目標	○歌論に述べられた古人のものの見方、感じ方の特色について、自分の考えをもととする。 (関心・意欲・態度) ○古典に表れた人間の生き方や考え方について読み味わうことができる。 (読む能力) (C「読むこと」の(1)のオ) ○語句の意味、用法などを的確に理解することができる。 (知識・理解) ([伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の(1)のイ(イ))				
単元の評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解		
	・俊恵・俊成の和歌に対する見解の違いについて、自分の考えをもととしていく。	・古典に表れた人間の生き方や考え方について読み味わっている。	・語句の意味、係り結び、敬語の用法、主語などについての的確に理解している。		
取り上げる言語活動	古典に表れた人間の生き方や考え方について、本文中の表現を根拠にして話し合うこと。				
題材(教材)	鴨長明『無名抄』「おもて歌のこと」				
単元(教材)について	(1)教材観：『無名抄』「おもて歌のこと」は、鴨長明の歌の師である俊恵と藤原俊成のそれぞれの「おもて歌」を核として、歌に関する見解の違いを述べた話である。具体的な作品、批評の言葉を通して、古典に表れた人間の生き方や考え方について学ぶことができる。 (2)生徒観：3年*組は進学学系であり、与えられた課題に対しては素直に取り組める生徒が多い。しかし、学んだことを発展させたり、本文の内容に踏み込んで根拠を基に話し合いをしたりすることは苦手としている。 (3)指導観：本文を難解にしている敬語や主語、重要古語、文法事項に留意しながら口語訳を行う。そして俊恵派・俊成派のグループに分かれ話し合い、自分の意見、理由を述べて交流させることで、俊恵・俊成双方の考えを把握させ、生徒が正確に二作品を捉えられるようにする。				
指導計画(学習計画)	主な学習活動		主な評価		
	1 語句の意味や用法を理解して本文を通読し、鴨長明についての知識を確認し、本作品の文学的価値について知る。	2 本文の三首の和歌について初発の感想を書き、良歌とは何か、自分の考えをまとめる。	3~5 主語や発言者に注意しながら全体を口語訳する。	6 2でまとめたことと俊恵・俊成の考えを比較し、もう一度自分なりの歌論をまとめる。	7 6でまとめたことを基に、藤原俊成と俊恵の和歌のどちらを良歌とするかについて話し合う。

本 時 案 (第7時)

<p>本時の目標</p>	<p>○積極的に自分の意見を述べ、相手の意見を聞いてメモを取り、質問をすることができる。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○自分の意見を述べ、相手の意見を聞いて整理し、更に自分の考えを深めることができる。 (読む能力)</p> <p>○本文の内容を正確に理解し、学習内容を踏まえた自分の意見を述べるることができる。 (知識・理解)</p>	
<p>準備</p>	<p>前時のまとめプリント、話し合いシート、振り返りシート</p>	
<p>学習活動</p>	<p>指導上の配慮事項など</p>	<p>評価・方法など</p>
<p>1 プリントを見ながら前時を振り返り、自分の意見とその理由について確認・補填する。</p>	<p>○プリントを返却し、友達が書いたアドバイスを参考にして自分の意見を整理・確認させる。</p> <p>○なぜ俊恵（俊成）派なのか、理由まで説明できるようにさせる。</p>	<p>○積極的に自分の意見を述べ、質問しようとしている。 (関心・意欲・態度) 〈記述の分析〉</p>
<p>俊恵と俊成の「おもて歌」について、自分の意見を発表し、相手の意見を参考にし て和歌の表現について考えよう。</p>		
<p>2 グループに分かれ、司会者・記録者・発表者を決める。</p>	<p>○俊恵派・俊成派のバランスを考慮してグループ分けを行う。話し合いシートを準備し、決定した役割を記入させる。</p>	
<p>3 俊恵と俊成の和歌の表現について話し合う。</p>	<p>○一人ずつ自分の意見、理由、質疑の順で行わせる。一人ずつの発表が終わったら、自由に意見を交換する。</p> <p>○出た意見や話し合った内容については各自プリントに記入させる。記録者は話し合いシートに記入させる。シートは後日印刷して配布する旨を伝える。</p> <p>○プリントを見ながら、意見と理由を順序立てて説明させる。特に自分と違う意見をメモさせる。</p>	<p>○本文の内容を正確に理解し、自分の意見を述べている。 (知識・理解) 〈話し合いシート〉</p>
<p>4 発表者が話し合いシートを基に発表する。</p>	<p>○他グループにも話し合った内容が伝わるように、発表の仕方を工夫させる。発表者以外は、メモをとり、参考にするように指示する。</p>	<p>○相手の意見を聞いてメモを取り、質問をしようとしている。 (関心・意欲・態度) 〈記述の分析〉</p>
<p>5 振り返りシートに記入する。</p>	<p>○相手の意見を聞いた感想を書かせる。箇条書きでもよいものとする。</p> <p>○振り返りシートを回収する。</p>	<p>○相手の意見を聞いて自分の考えを深めている。 (読む能力) 〈振り返りシート〉</p>